

## はるにし子どもカレー食堂ヒアリング まとめ

令和元年6月21日訪問

市内には、7か所の「子ども食堂」が開設されています。今回お話をお聞きしたのは、市内で最も早く開始された「はるにし子どもカレー食堂」です。スタッフの方に事前にアンケートをお願いするとともに、見学時にご意見をお聞きしました。また、参加した子どもたちにも簡単なアンケートに答えてもらいました。

## ■市内の子ども食堂

名 称	会 場	実施団体
はるにし子どもカレー食堂	ゆうあいの家	はるにし子どもカレー食堂運営委員会
子ども食堂R北尾	北尾団地自治会館	子ども食堂R北尾
栗東BBS 子ども食堂	坊袋	栗東市BBS会
にじの家サロンこども食堂&寺子屋	小平井	しが健康医療生活協同組合
花明かり食堂	縵	花明かり食堂
こども食堂 りゅうりん	中国料理 龍鱗	石原産業㈱
はるひが キッズカフェ	コミュニティセンター治田東他	はるひが キッズカフェ

## ■はるにし子どもカレー食堂の概要

開 始	平成30年4月1日 (平成27年度から平成29年度は栗東市社会福祉協議会が県のモデル事業*として実施)
会 場	ゆうあいの家
登録者数	約100人(毎回80人くらいの参加者がいるが、当日は雷雨等があり、66人が参加)
開催日・回数	原則として毎月第3金曜日 17:30~18:30 (7月は第2金曜日、8月・12月は休み。平成30年度は土曜日の昼食)
対象者	治田西学区の小学生
スタッフ	治田西学区のボランティア、民生委員・児童委員、健康推進員
メニュー	カレー(季節の野菜入り)、野菜スティック(人参、きゅうり)
スケジュール	16時~ 調理開始 17時頃 会場の設定(シート、テーブル設置) 17時半頃 受付開始。 受付をした子どもから、順次、皿を受け取り、好みのカレーを、好みの量だけ盛り付けて、喫食。 食事を終えた後は、備え付けの卓球、自前のゲーム等をして自由に過ごす。 18時半頃から 子どもを送り出す。 その後スタッフ等の食事、後片付け、反省会。

\*県のモデル事業(滋賀の縁創造実践センターの「遊べる・学べる淡海子ども食堂」モデル事業):地域の子どもたちが、ご飯を食べたり、宿題をしたり、本を読んだり、遊んだりなど、地域の大人とつながり、安心して過ごすことのできる居場所を、定期的に開設する事業。センターは、モデル事業の運営への助言、支援を行い、必要に応じて立ち上げ等にかかる経費の助成を行う。助成額は、1モデル事業あたり初年度20万円(初度経費支援)、2年目、3年目各10万円(運営費支援)。

## <スタッフへの聞き取りおよび事前アンケート>

(開始前に男性スタッフ、終了後に女性スタッフへインタビューを実施)

6月21日の子ども食堂参加者スタッフ：22人

事前アンケート回答者：5人

性別：男性2人 女性3人

年齢：50歳代1人、60歳代3人、70歳代1人

### はるにし子どもカレー食堂を始めた経緯

- ・元々は社会福祉協議会が県のモデル事業で始めた。民生委員はその時から関わっている。補助金が終わった後に続けるかどうかを民生委員で半年ぐらいかけて話し合い、やめようという意見もあったが、最終的には子どもたちのために続けようということになった。
- ・続けることになって困ったのが、お金とボランティアが集まるかどうか。ボランティアが集まらない場合を考えて健康推進員の方2人にきてもらった。ボランティアはサポーター役としてコミセンだよりで募集したら来てもらえたので助かっている。
- ・社会福祉協議会が始めた時は、親と一緒に食事ができない子への支援として始めたが、現在は居場所づくりというコンセプトに変わった。卓球台とか置いて、食事をしながら1時間ここで遊んでくださいという感じになっている。
- ・最初は大人も料金をもらってOKとしていたが、家族そろって外食感覚で来ている人もあり、趣旨としておかしいということで、中学生と小学生を対象とするようになった。現在は、小学生のみを対象としているが、学習支援の中学生にもカレーを食べてもらっている。

### はるにし子どもカレー食堂をお手伝いしようと思ったきっかけ

- ・社会福祉協議会がモデル事業をしていた頃から関わっている。
- ・民生児童委員なので。
- ・子どもカレー食堂があることを3年ほど前に知り、学区内でボランティア活動をとっていた時、募集があり参加させていただいた。
- ・ボランティアの募集を見て参加した。
- ・娘が学習支援のサポートをしていたり、利用者会議でもお世話になっていたので協力させていただいた。
- ・お孫さんがカレーを食べに来ていて、家で話しているのを聞いて手伝いに来る気になった人もいる。

### はるにし子どもカレー食堂を実施してみて、良かったと思う点

- ・お友だちと楽しそうに会話している姿を見られること。
- ・地域の子どもとふれあうことができた。
- ・ボランティアの方々と接し、多方面からの見識が得られた。
- ・毎回来館している子どもも数人いるので、その子どもたちにとっては子ども食堂が必要とされているのだな感じられた。
- ・子どもたちが「おいしかった」と言ってくれるのがうれしい。
- ・子どもたちが楽しそうに会話している姿や、おいしそうに食べている姿を見ているとうれしい。
- ・子どもたちが、ほかの場所で会っても「カレー食堂のおばちゃん(おじちゃん)や!」と声をかけてくれる。
- ・今日は新鮮な野菜をスティックサラダにしたら目新しかったのか喜んで食べてくれた。家ではあまり食べていない野菜(にんじん)を食べてくれたのでうれしかった。
- ・子どもたちの表情が、毎回少しずつ明るく元気になっている印象を受ける。
- ・自分からあいさつをしてくれる子が多くなった。
- ・食べる前に、自分から進んでお手伝いをしてくれる子がいてうれしかった。これからもボランティア精神が育ってくれたらいいと思う。
- ・カレーを注ぎ終わったあとに「ありがとうございます」という子が多くて、うれしかった。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・始めた頃に比べて子どもたちが落ち着いてきて、おとなしく食べてくれるようになった。私たちが付き合い方が分かってきて良くなった。</li> <li>・年数を重ねるごとに癒やされることが出てきて、みんなが親しんでくれたり、なじんできたりしてくれることで、私たちが元気をもらっているのかもしれない。</li> <li>・ボランティアもみんなと会えるのを楽しみにしている。違う世代の人や若い人も交流できるので、すごく良いと思う。</li> </ul>
<p>はるにし子どもカレー食堂を実施する上で、子どもに伝えたいことや知っておいてほしいこと</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・カレー食堂は、多くの方々に支えられて実施していることを知ってほしい。また、ありがとうと言える人になってほしい。</li> <li>・子どもたちに“五つの挨拶”（こんにちは・いただきます・ごちそうさまでした・ありがとう・さようなら）をしっかり身につけてほしい。挨拶ができるよう、子どもたちに声かけをしていきたい。</li> <li>・子ども食堂に来て、誰かと一緒に食事をするということが、おいしさも、楽しさも育まれ、そのことが大きくなって“人のために奉仕する”という心が芽生えてくれたらうれしい。</li> <li>・友だちを何人かつくって、楽しく学校生活を過ごしてほしい。自ら考え計画し、行動できる児童になってほしい。</li> <li>・友だちを何人か作って、少しでも楽しく学校生活を過ごしてほしい。そうして、あゆみにあるように、自ら考えいかくし、行動できる児童になってほしい。</li> </ul>
<p>運営等について</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県のモデル事業が終わった後、継続事業としては補助金が下りなかった。国の基金にも応募したがダメだった。社会福祉協議会が赤い羽根共同募金から予算を出すので応募してくださいと言ってきて、さらに新規事業として余分に1万円出していただいた。</li> <li>・米は社会福祉協議会や地域の方から提供してもらっている。野菜も地域の方から提供してもらっている。肉は知り合いのところから安く提供してもらっている。水はダスキンが無償提供してくれている。会場は民生委員が主体の活動ということで特別に貸してもらっている。このような多くの協力者がいることで続けていけている。</li> <li>・県が防災用の備蓄を賞味期限の半年前に配布されるので、去年は申込みをした。</li> <li>・セブンイレブンが閉鎖になった店の商品を県の社会福祉協議会に寄付してくれて、子ども食堂に分配してくれたりする。各企業でも協力してくれるが、申請書類の作成が大変。</li> </ul>
<p>今後の課題等</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・居場所づくりという意味では、大雨が降った時に子どもたちが来てくれるのか。おそらく来ないと思う。</li> <li>・食べ終わった子どもたちが走り回ったりしてしまうことがある。そのつど注意しているが、今後も大人の目で注意できればと思う。</li> <li>・友だち同士で来ている子たちは、そこにつながりができていて楽しそうだった。一人で来ている子もいて、その子にも声かけできるとよいが、子ども同士では無理なので、大人がサポートできるとより良いと思った。</li> <li>・受付をしていると、まだ声が小さい子がいる。元々声の小さい子なのかと思っていたが、ほかの子が話し出したら、どんどん話し出した。話しかけたらけっこう話していく。やはり言葉のキャッチボールが必要と思う。</li> <li>・ここに来る子は積極性がある子で、引っ込み思案の子はたどり着けないと思う。友だちを誘ってくれるよう声かけするようにしたい。</li> </ul>
<p>その他</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉協議会が立ち上げ、それを地域で引き継いで続けていけるといいと思う。思っていたよりボランティアが集まったことが一番素晴らしい。</li> <li>・精神面、生活面で困っている人に来てほしいと思うが、特定しにくいのと、言いにくい。</li> <li>・現在は食事が終わると、卓球をやったり、持参したゲームで遊んだりしているが、ゆくゆくは中学生・</li> </ul>

- 高校生にも来てもらって、小学生とふれあってもらえたら良いと思う。
- ・帰りが暗くなると心配になる。
  - ・市からもう少し補助してほしい。子ども食堂を続けていくにはお金と人手が必要。
  - ・草津市の図書館が子ども食堂に絵本を貸し出す取組を始めたことが今日の新聞に載っていた。栗東市でもやってほしい。
  - ・畑をつくっている人に、余っている野菜を子ども食堂に提供してもらえるようにアピールしたり、J A とつないでもらうなど、市には補助金以外にもいろいろな支援策を考えてもらえるとうありがたい。

## <子どもアンケート>

回答者：61人

性別：男性32人 女性29人

学年：1年生4人 2年生11人 3年生15人 4年生8人 5年生14人 6年生9人

参加回数：初めて2人 2回目9人 3回以上50人

### ◆はるにし子どもカレー食堂に参加した感想

区分	件数	意見の主な内容
おいしい	49件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カレーもとてもおいしかったです。げきレアおいしかったです。</li> <li>・いろいろな野菜が入っていてとてもおいしかった。</li> <li>・カレーがおいしい。具がちがうのでたのしみ。</li> <li>・カレーがおいしくて、具がちがったりするから毎週楽しみにしています。</li> <li>・給食のカレーよりおいしかった。</li> <li>・おうちのカレーよりもおいしい。</li> <li>・いつもとってもおいしい。子どもの口にあってる。</li> <li>・からいカレーもあってあまいカレーもあるからずっとたべたいです。</li> <li>・あま口がすごくおいしかったです。</li> <li>・今年3回目だけどカレー食堂のカレーはいつでもおいしい。</li> <li>・3回目だけどぜんぜんあきないし、とてもおいしい。</li> <li>・ピクルスがおいしかったです。</li> <li>・にんじんがおいしかったです、なまで。</li> <li>・毎回おいしくて、あきないおいしさ。 など</li> </ul>
一緒に食べられる	11件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなと楽しく食べられる。</li> <li>・友達やちがう学年の人とふれあえていい。</li> <li>・友だちとたべるのもたのしかった。</li> <li>・みんなと食べれてたのしい。</li> <li>・みんなが楽しめて食べれるのがもっともいいところだと思います。</li> <li>・いろいろな友だちと出会って楽しい。</li> <li>・わたしの友達もいて、楽しかったです。</li> <li>・友だちと食べれてよかった。</li> <li>・友だちと食べることによっておいしさもまして、すごくおいしかった。</li> <li>・友だちといっしょにごはんを食べることができるので、とてもたのしい。</li> </ul>
たのしい／たのしみ／おもしろい	12件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はるにし子どもカレー食堂に参加して、とても楽しかったです。</li> <li>・たのしい。</li> <li>・おもしろかった。</li> <li>・毎日楽しみにしている。</li> <li>・卓球もあってすごくたのしい場でもありました。</li> <li>・卓球が楽しかった。</li> </ul>

		・友だちと卓球などで遊べるし楽しい。 など
また行きたい	6件	・また行きたいです。 ・またきたいです。 ・10回以上いきたい。 ・毎回参加したい。
おばちゃん	4件	・おばあちゃんが話してくる。 ・おばあちゃんが有名人やと思って話しかけてくる。(たぶんちがう) ・ともだちのおばあちゃんがいた。
その他		・デザートがほしい。 ・できるんやったらもっとおてつだいをしたいです。 ・無料でカレーを食べさせてくれるのでありがたい。 ・おいしくて食べちゃうけどおかわりできないのがかなしいです。 ・子どもカレー食堂はすごいと思います。 ・ほかの学年にも、のこさず食べてもらいたい。 ・ありがとうございました。

<まとめ>

- 全体としては、参加者が非常に多く、賑やかで楽しい会となっていました。滋賀県の子ども食堂の特徴としての居場所づくりを大事にしていることが伺えました。
- 社会福祉協議会が中心となってスタートした取り組みですが、モデル事業終了後に話し合いが行われ、地域の独自の取り組みとして食堂の継続が決められました。その後も、利用対象者、開催内容の変更など試行錯誤が繰り返され現在のスタイルとなっています。これからも、内容の見直し・充実が図られていくことと考えられます。
- 今回の訪問（見学）は、食育という視点から子ども食堂を取り上げることとしましたが、子どもたちからは「おいしい」という声が非常に多く食べることを楽しんでいること、ルールや決められた手順を守って食事をしていること、多くの子どもが友だちとの共食を楽しんでいることなど、子ども食堂は地域での共食の場であり、食育の実践の場の一つになっているのではないかと感じられます。
- 異年齢と一緒に食事することから、高学年の子どもが低学年の子どものめんどうを見ることもあります。子ども食堂を支える大人の姿を見て、自分も支援者になりたいという福祉の心を醸成する場となることも期待されます。  
また、子どものアンケート結果から「手伝いをしたい」という声もあり、子ども自身が調理したいという食への自立のきっかけとなることも期待されます。
- 子どもたちにとって、食堂の「おばちゃん」「おじちゃん」の存在は、家族以外の大人と話をする貴重な機会となっているようです。子ども食堂をきっかけとして、地域での顔の見える関係づくりに繋がっていると考えられます。
- 今回の訪問では、生のにんじんやきゅうりを野菜スティックにして、子どもたちに提供されており、多くの子どもたちが喜んで食べていました。友だちや周囲の人たちと一緒に楽しく食べることが、普段は食べないものを食べてみるきっかけとなり、野菜など好き嫌いの克服等に繋がっているように感じられます。
- スタッフである「おばちゃん」「おじちゃん」のモチベーションは、子どもたちの笑顔や成長であり、「おいしかった」「ありがとう」の言葉です。“子どもたちのためにやるんだ”というスタッフの言葉がこの活動の原点であり、今後も取り組みが継続されると考えます。
- 今後も子ども食堂を継続していくための課題としては、資金の確保、地域（企業・農家等）からの食材の提供協力、そのためのPRなどがあげられます。また、子ども食堂の目指すところ・目標としては、中学生を含めた次世代のボランティアの育成と確保、地域の新しいつながりづくり、などがあげられます。これらの課題に対して、地域や行政等の協力体制について検討が必要だと考えられます。

〈はるにし子どもカレー食堂の様子〉



スタッフが調理・会場の準備をします



子どもが来所したらまず受付をします



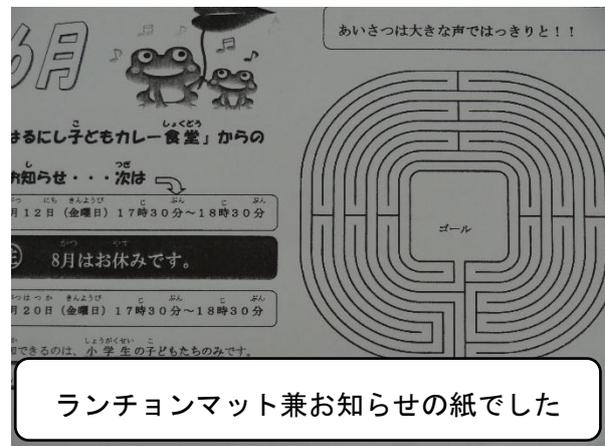
子どもが食事の準備をします



カレーをもらうために順番に並びます



子どもが自分で食べる分をよそいます



ランチョンマット兼お知らせの紙でした



みんなで一緒に食べます



食べ終わったら指定の場所へ片づけます